

楽しくおいしく交流

スポーツ少年団の交流会



ターゲットパードゴルフ「うまく的に入るかな」

みんなのひろば

ここはみなさんが主役のひろばです。

身近な話題をどんどんお寄せください。

■役場企画室 TEL42-1613

この日の交流会には、5団体から50人が参加。3つのグループに分かれ、ターゲットパードゴルフ、吹き矢、輪投げの3種目でそれぞれ得点を競い合いました。

競技終了後には、父兄たちによる手作りの豚汁がふるまわれ、団員らはおいしそうに食べながら交流を深めていました。

1月20日、村スポーツ少年団(庄司和明本部長)の交流会が飯館中体育館にて行われました。

この交流会は、団員相互の交流を図るため、毎年この時期に実施しているものです。



高得点続出の輪投げ

中学生がコース料理で洋食の作法を学ぶ

テーブルマナー給食



ナイフとフォークを使って洋食の作法を学んだテーブルマナー給食

飯館中学校(島義一校長)では、生徒たちに洋食の基本的な作法を身につけてもらおうと、昨年に続きテーブルマナー給食を行ないました。

今回は3年生を対象に、1月31日から2月2日までの3日間、それぞれクラス毎に調理室で行いました。

給食では、給食センタ

ーの調理員がコース料理を生徒たちへ一品ずつ配膳。生徒たちは、ナイフとフォークを使いながら、洋食のテーブルマナーを学びました。

給食を終えた生徒たちは、「音をたてないように食べるのが難しい」、「貴重な経験が出来て良かった」などと感想を話していました。

20の リレートーク



佐藤千佳さん
(飯桶町出身)

◆成人になって

「もう歳をとらなくていいよねー」
なんて会話を友達としたのが17歳の春でした。それから何と3年も経ってしまいました。
思い出すと色々あったよ
うな気がします。3年で何が変わったかといえば、住むところぐらいいいような気がします。
一人暮らしで気付いたの

は自分の無力さです。「自分はこんな不甲斐ない女なのか」と思い知らされる日々です。

今年の成人式で、自分は本当に多くの人の力で育ててもらったという事実を深く感動しました。しかし、感動したからといって、一朝一夕でその不甲斐なさがどうにかなるものではありません。

私は20歳になり、やっと自分の無力さを、自分を生かす育んでくれる周囲の力を実感しました。この発見で自分の進む方向もほんの少し見えてきました。

まだまだ子どもは、これから色々な人々に「迷惑をおかけしていくこと」でしょう。立派な大人になる自信は全くありません。それでも「今までの色々な人や自然からもらった感謝」を、「嬉しくて思わずニヤリ」としてしまふ気持ち「を内に秘めて、今を精一杯生きていきたいと思っています。



飯館中生のチャレンジ

人には「やった!!」「どうやって」という体験が、いかにその人を成長させ、勇気や熱意、さらには心のやさしさを与えてくれるか、ということには多くの方によって語られている。

立ち向かう課題が大変であればある程それが達成された時の喜びは大きく、人生の肥やしにもなる。
そうは言っても、私たちはそのような体験を簡単に出来る訳ではない。

しかし、飯館中生75名は一緒に頑張ってそれを事もなげに成し遂げてしまった。

1月30日、浪江町で開催された「10マイルロードレース大会」に、1、2年生を中心に75名が参加し、5kmのコースを歯を食いしばりながらも全員が完走した。これまで、この大会には一部の生徒が何人か参加はしていたそうであるが、今回は75名という大勢の参加になった。中学男子

の部、参加者150名中53名が飯館中生であったというところから、その参加ぶりがかげがえるであろう。

今回、多数の参加になったのは、校長先生や諸先生方が、運動不足の冬期間、何とか生徒たちに目標を持たせ、努力を続けさせたいという考えから希望者を募ったそう。それに生徒たちが自らの判断で、大勢の参加になった。

未だかつて5kmなど走ったことのない生徒が多く、毎日体育館で走り込みをしての参加だったようである。したがって、順位は大方が下位の方であったが、これは正に順位の問題ではなく、完走したそれぞれが達成感や充実感を味わったかが何より大切である。

多くの生徒たちが「辛かったけど満足した」、「頑張れば出来るんだね」、「どうやってたという思い」などの感想があった。だから、今後の勉強においても人生においても大きな糧となったことであろう。

目標を持つこと、努力すること、続けること。いかに大切かを身をもって体験した生徒たちのこれからの人生に村民をあげて乾杯したい。

平成17年2月28日

飯館村長 菅野 典雄

佐藤フミ子さんからホームへ

形・心に残る贈り物



いいいたて福祉会の菅野理事長(村長)へアンプを渡す佐藤さん

2月1日、佐藤フミ子さん(草野)が、「特養いいいたてホーム」へ、ワイヤレスアンプを寄贈されました。

このワイヤレスアンプは、今年度の「クオリティ・ライフ顕彰事業」素敵な田舎人として認定を受けた佐藤さん自身、表彰の副賞に選んだものです。

佐藤さんは、毎週ホームを訪れボランティア活動を行なっています。今回の副賞を選ぶ際も「ホームへ何か役に立つものを贈りたい」と、このアンプを希望。

ホームでは、これまでカラオケなどをする場合、入居者が音響設備のあるホールまで移動しなければなりませんでしたが、これからは、アンプを各グループや部屋に持ち込むことで、手軽に利用することができ、入居者の皆さんも大変喜んでくれるとのこと。



佐藤さんから贈られたアンプ

ほんの森いいいたてが10周年

あきやまただしさんを招いて記念講演会



講演会のようす



人気絵本作家のあきやまただしさん

平成7年2月に全国初の村営書店としてオープンした「ほんの森いいいたて」が、今年で10周年を迎えました。

これを記念して、2月26日、絵本作家あきやまただしさんを招き、ビレッジハウスのラウンジにて記念講演会が行なわれました。

あきやまさんは、NHKのテレビ番組「おかあさんといっしょ」

「よ」でおなじみの「パンツぱんくろっ」などで人気の絵本作家です。

講演会では、あきやまさん自身が書いた絵本の読み聞かせをはじめ、オリジナルの紙芝居や歌も披露されました。

会場には、たくさんの家族連れなどが詰めかけ、あきやまさんの楽しいコンサートに聞き入っていました。